



# グリーンメール



令和3年度  
Vol.3

鳴門藍住農業支援センターだより

〒771-1220 徳島県板野郡藍住町東中富字舩傍示29

TEL : 088-692-2515 FAX : 088-692-0355

[http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto_aizumi/)

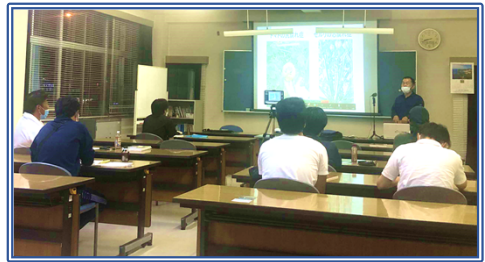
## 青年クラブ員が「土づくりの専門家」を目指しています！

鳴門藍住地区農業青年クラブが、栽培技術の向上を目指して土壌医検定の勉強会を行っています。

土壌医検定とは、土壌診断を用いて地力の低下や土壌病害等に対応できる、「土づくりの専門家」を育成するために行われている検定です。

勉強会は令和3年7月から毎月、鳴門藍住農業支援センターで開催しており、センター職員が講師を務め、クラブ員約10名が土壌医検定の合格を目指しています。また、感染症対策として勉強会の内容は、クラブ員へオンラインでも配信しています。

ご興味のある方は、気軽に当センターまでご連絡ください。



## 「れんこん研究会」が太陽熱消毒を請け負っています！

令和3年7月から8月にかけて、「れんこん研究会」が鳴門市各地でれんこん畑に太陽熱消毒の処理を行いました。

「れんこん研究会」は、鳴門市などでれんこんを栽培している青年農業者が集い、れんこん栽培の補助や一般の方への情報発信等を行っているNPO法人です。今回は研究会会員のは場や、研究会へ依頼があったは場の太陽熱消毒処理を行いました。

太陽熱消毒とは、夏場の暑い日には場をマルチフィルムで覆い、太陽熱を利用して土壌を高温にすることで、土壌中の菌や雑草を死滅させる技術です。

手順は、まず水分を含んだは場を耕耘し、石灰窒素を撒いてから再度耕耘します。その後、は場をマルチフィルムで隙間無く覆うことで、準備は完了です。約2週間被覆することで、太陽熱によって土壌が消毒されます。

マルチフィルムで被覆する作業は、広いは場全てを被覆する大変な作業です。人手が足りない家や高齢の方が作業を行っている家では行うことが難しいので、研究会が作業委託を受けて被覆を行っています。時期を失せず地温を十分に上げられれば、高い防除効果が期待できます。太陽熱消毒に興味はあるけれど人手が足りない、という方は作業の委託を検討されてはいかがでしょうか？



マルチフィルム被覆の様子



## GAPに取り組んでみませんか？

GAPとは...

**Good Agricultural Practice**：直訳すると、「良い農業の実践」を意味します。食品安全や環境保全、労働安全、農場経営管理などに関する取組みを行うことで、持続可能な農業生産に繋がります。「GLOBAL G.A.P.」、「JGAP」や本県独自の制度である「とくしま安<sup>2</sup>農産物(安<sup>2</sup>GAP)」認証制度などがあります。

今年度は、管内で2名の農業生産者が「安<sup>2</sup>GAP」の認証を取得しました。この認証を受けるには定められた基準を満たす必要があります。当支援センターでは、検査員による検査に合格することを目指して、作業場の改善や必要書類の準備等の支援を行ったり、研修会を開いてGAPの推進を行っています。

GAPに取り組みたいという方は、ぜひ当支援センターまでお問い合わせください。



↑検査の様子

## にんじんの種まき体験が開催されました！



令和3年9月1日（水）、藍住西小学校の3年生を対象に「にんじんの種まき体験」を開催しました。

この取組みは、約20年前からにんじん農家で藍住町自立経営農業振興会会長の濱さん協力のもと、藍住西小学校、藍住町役場、農業支援センターが実施しています。

例年は、10月頃にハウスの中で種まき体験を実施していますが、新型コロナウイルス感染予防のため、前年に引き続き露地栽培での種まき体験を行いました。

児童は、4cm間隔の目印を付けたポールを目安に、1人あたり60～80粒の種をまきました。今後は間引きを行い、年末頃に収穫体験を予定しています。



にんじん種まき体験中♪

## 農作業中の事故に気をつけましょう！

今年に入り、9月末までに県内では2件の農作業による死亡事故が起きています。農作業中に起きる死亡事故は、トラクター等の農業機械が田畑・用水路等へ転落する事故や、夜間等に追突される事故が多くなっています。農作業を安全に行うため、安全確認と予防対策をしっかりと実践しましょう。

### ●道路走行時の注意点

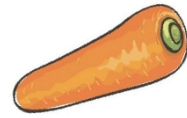
思わぬ急旋回を防ぐために、公道走行前に**ブレーキ連結の確認**を必ず行いましょう。また、一般車両から追突されないように**低速車マーク**や**反射板**を設置して、周囲にトラクターがいることを伝えましょう。ロータリー等の作業機を付けて公道を走るとトラクター本体のランプ類が見えなくなることがあります。その場合はランプ類を見えるところに増設し、安全性を確保することも必要です。

### ●安全装備について

万一の転落や横転に備えて、トラクターに**安全フレーム**や**安全キャブ**を装着しましょう。また、作業員自身が**シートベルト**や**ヘルメット**を着用し、安全な農作業を心がけましょう。

## 10月・11月・12月の栽培管理

### にんじん



#### <播種前の管理について>

- 基肥は播種10日前までに全面に施用し、できるだけ丁寧に深耕し、高畝としましょう。
- 播種前に土を十分に耕耘し、保水性和通気性を高めておきましょう（土壌水分過多で立枯病の発生が助長されるので注意）。
- しみ腐病の発生が多い圃場では、ユニフォーム粒剤を散布しましょう。

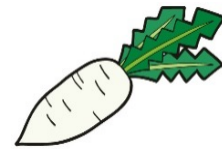
#### <10月・11月の管理について>

- ヨトウムシ類は、10～11月播きに発生が多いため、早期発見・早期防除を行いましょう。
- 近年、11月でもトンネル内がかなり高温になっています。換気は気象変化と生育に気を配りながら行いましょう。
- 適期換気に努めましょう。トンネル内気温は、土寄せ時期の本葉5～6枚まではやや高温の30℃を目安とし、初期の生育を促しましょう。

#### <12月の管理について>

- 生育初期の乾燥に注意しましょう。
- 本葉5～6枚頃に芯葉が埋まらない程度に充分土寄せし、青首を防ぎましょう。
- 菌核病の多発圃場では、土寄せ前に薬剤散布を行い、この時期から10～20日後に追加防除することで、菌核病の発生を抑制しましょう。

### だいこん



- 10月中旬までは春だいこんの播種時期にあたります。品種を厳選して、適期播種を行ってください。
- 追肥の目安は、1回目は本葉6～7枚の時期に窒素成分で10aあたり3～3.5kg程度、2回目は本葉10～12枚の時期に窒素成分で10aあたり7～7.5kg程度です。
- この時期は1日の気温の差が大きいため、病気が出やすくなります。雨が多い時は、予防のための早めの農薬散布が重要となります。特に軟腐病等のバクテリア（細菌）による病気は、風や害虫の食害等の傷口から病気が広がるので、台風等で強風を伴う雨が予想される場合は、雨の降る前と雨が降った後の防除に心がけてください。
- また、雨が多いと肥料切れを起こしやすいので、追肥の時期や量に気をつけてください。
- 逆に雨が少ない時は、かん水が必要となります。また、雨が少ないと害虫が発生しやすくなります。特にアブラムシ等の発生に注意してください。
- 11月上旬から収穫が始まります。収穫適期を逃さず、品質の良いだいこんの出荷に努めてください。
- 12月以降低温が予想される場合は、生育が極端に遅くなる場合があります。タフベル（ベタロン）、パオパオ、バロン愛菜等遮光率の低い資材で被覆してください。

## ブロッコリー



### <定植後の管理について>

- 定植活着後は、ヨトウムシ類等の早期発見に努め、早期防除を行いましょ。う。
- 初期生育促進のため、1回目の追肥を活着直後の定植後10～14日頃に行います。
- 追肥は2～4回に分けて施し、花蕾が500円玉くらいの時期の追肥を最後とします。一回の追肥の目安は、10a 当たり窒素成分で3～5kgです。
- 追肥時に雑草の発生防止と株の倒伏防止のため、中耕・土寄せを行いましょ。う。

### <病虫害防除について>

- コナガ、ヨトウムシ類は大量発生すると防除が困難になるため、早めの防除を心がけましょ。う。近年はジアミド系の薬剤に対して抵抗性の発達が疑われることから、IRACコードを参考にローテーションでの防除を行いましょ。う。
- べと病・黒すす病対策として、本葉5～6葉期および出らい前に殺菌剤の予防散布を行いましょ。う。特に外葉にべと病の病斑が見られる場合は、組織内べと病の発生に繋がるので必ず防除しましょ。う。

## れんこん<土壌分析に基づく施肥設計>



- 収穫の終わったほ場から土壌分析を行い、土壌中に肥料がどのくらい残っているかを把握し、効率的な施肥に努めましょ。う。
- 石灰の施用量が多い傾向にありますので、土壌の石灰含量とpHに注意しましょ。う。

## いちご<「さちのか」の管理>



- マルチ被覆まで、ハダニ防除を徹底しましょ。う。
- 開花時期に合わせてミツバチを導入しましょ。う。導入までは防除を徹底し、導入後はミツバチに影響のない農薬を使用しましょ。う。
- 摘果作業は、草勢に応じて頂果を10果以下に、わき芽整理は、頂果房両側の2芽を残して、それ以外のわき芽は早めに除去しましょ。う。
- ハウス内の気温が6℃以下になる頃に加温管理ができるよう、二重被覆や暖房機の準備は早めにしましょ。う。
- 電照は11月15～25日頃に開始し、厳寒期の草丈25cmを目標に管理します。草勢を見ながら電照の条件、温度・肥料・水分の管理を行いましょ。う。

## 果樹<収穫後から落葉までの管理>

- 落葉するまでは、病虫害を来年度に持ち越さないためにも、秋防除をしっかりと行ってください。
- カイガラムシ類、ハダニ類等の越冬病虫害対策として、機械油乳剤を散布するようにしましょ。う。
- 病気の発生源となる落葉、病果は園外に持ち出すか、土中に埋めておきましょ。う。

